

令和3年度 第5学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	児童の実態及び課題 (思・判・表または、態)	・重点をおく単元、 カリキュラムデザイン	授業改善に向けての具体的な方策 ※課：課題 発：発問・指示・板書 教：教材の工夫 他：その他
国語	態 ・「書くこと」において、自分が言いたいことがよりの確に伝わる表現になるまで吟味できていない児童が半数程度いる。	・「あなたはどうか考える」(意見文) ・「俳句・短歌」	教・学習モデルを提示し、文種による文末の違いや表現技法について確認し、めあてをもつ時間を単元冒頭に設定する。 他・年間を通して定期的に俳句や短歌を作って互いに読み味わい交流する時間を設定。 他・類語辞典を準備し、自主的に言葉を見付ける環境を整える。
社会	思・判・表 ・資料から分かることを一問一答のように見付けることはできるが、複数の資料同士を関連付けて、考えを広げるまでに至っていない児童が7割程度いる。	・「わたしたちの生活と工業生産」	課・その時間の中心資料をノートに貼り付け、気付いたことを複数記入する時間を設定する。 発・資料から気付いたことや考えたことを板書する際、複数の意見を矢印で繋げて関連を示す。
算数	思・判・表 ・1学期のワークテストの知識・技能の観点では、全ての単元で平均90%以上だが、思考・判断・表現の観点では、平均80%ほどの単元がある。特に体積、割合の単元に課題がみられる。	・「単位量のあたりの大きさ」 ・「割合」	発・課題提示の際は、デジタル教材や具体物・半具体物を利用して、視覚的・感覚的に問題をイメージできるようにする。 教・計算の仕方や立式の根拠を、図や算数的用語を用いて、ノートにまとめたり、発表したりする時間を設定する。
理科	思・判・表 ・実験の結果をもとに考察し、考えを表現することに課題がある児童が3割程度いる。	・「ふりこ」、 ・算数「比例」	発・理科の学習の流れである予想・結果・考察・結論の項目を板書で明確にし、児童自身がノートに表現できるように指導する。 教・実験の際、班で活動をさせ、友達同士で考えたり、実験を振り返ったりする場面を作る。
音楽	(思・判・表) ・学習内容について最終時に自分の考えをまとめたり紹介文にまとめたりする際、既習の内容を生かしたまとめをすることに課題のある児童が多い。	・「曲想の変化を感じ取ろう」	発・音楽表現を工夫するための思考の手掛かりになるよう、学習の中心となる〔共通事項〕が明確になるような発問を吟味する。 教・学びを振り返りながら学習することができるような学習カードを作成する。
図工	思・判・表 ・題材のめあてをよく理解し、自分がどのように表したいのかよく考えて、題材に向き合うことに課題がある児童が多い。	・「コロがるくんの旅」	教・児童の実態に合わせて、手ごたえを感じられる題材を設定し、工作の楽しさや基本の技術を体験していく機会を多くする。

令和3年度 第5学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

<p>家庭科</p>	<p>態 ・学校で実施できない実習があり、家庭学習にすると、学習に取り組む意欲について、個人差が大きくなってしまう。</p>	<p>・「食べて元気！ご飯とおみそ汁」、 ・体育「心の健康」</p>	<p>教・家庭で取り組んできたことを授業で共有し、互いに学びを深め、意欲を高められる場を設定する。 他・学年便りにて、事前に宿題の内容を保護者にも伝え、協力を得られるようにする。</p>
<p>体育</p>	<p>態 ・運動への苦手意識が強く、積極的に活動に臨もうとしない児童が2割程度いる。</p>	<p>・「跳び箱運動」 ・道徳「努力と強い意志」</p>	<p>課・学習カードやノートを活用し、自分は次にどうしたいのか、具体的なめあてをもてるようにする。 教・児童の実態から、学習に必要な場を段階的に設け、今もっている力で運動できるようにする。</p>
<p>外国語</p>	<p>思・判・表 ・各単元でねらいとする、会話例の模倣はできるが、既習事項を用いた自然な会話ができる児童は少ない。</p>	<p>・「What would you like?」、TGGにおける活動</p>	<p>教・デジタル教科書「Starting Out」や「日本のすてき Interviews!」を繰り返し聞かせたり、聞こえた表現を発話させたりして、自然な会話に慣れさせる。 他・ALTと担任で英語のやり取りを行い、児童に聞かせるようにする。</p>